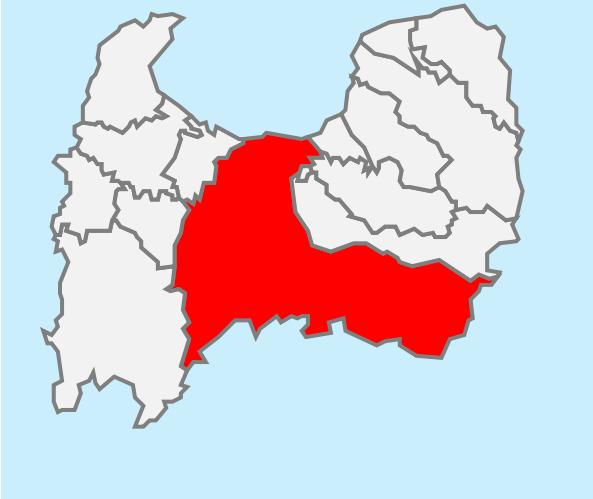




ACCESS
東京から
飛行機で約60分
新幹線で約2時間



富山市は、2018年に「SDGs未来都市」に選定され、経済・社会・環境の総合的なプロジェクトにより「持続可能な付加価値創造都市」を目指しています。

富山市では、富山湾から標高3000m級の北アルプス立山連峰までの雄大な自然が育む豊かな水資源を活かし、水稻を中心とした多様な農産物が生産されています。しかし、農業従事者の高齢化や後継者不足、農業所得の伸び悩みに加え、中山間地域では有害鳥獣による被害が増加するなど、近年は様々な課題にも直面しています。

そんな中、神通川左岸の中山間地域である小羽地域や岩木地域では、有機農業が積極的に取り組まれ、生物多様性の保全や地球温暖化防止に加え、地域で雇用を創出するなど、本市の持続性のある農業のモデルとなっています。

こうした取組を市内外へ発信し、中山間地域をメインに、水稻栽培等を中心とした有機農業を普及拡大することを目指し、「オーガニックビレッジ宣言」を行いました。

有機ある、挑戦を。

○有機農産物の生産拡大

市内にある富山県立富山中央農業高校が研究開発した「ドジョウを活用したアクアポニックス水稻栽培」の研修会や、有機JAS認証取得に関する勉強会に加え、有機JASの取得費用や有機農業にチャレンジする際に必要な農業用機械の導入を支援しています。

※ドジョウ養殖と水田用自動抑草ロボット、乗用除草機を組み合わせた有機米の栽培方法。

○有機農産物の消費拡大

令和5年度から、市内すべての市立小中学校で、有機JAS米を用いた学校給食を開始。有機農業の普及啓発に取り組んでいます。また、健康づくりに取り組む市民や市内ホテルに宿泊する観光客にえごま油を試飲していただきなど、消費拡大に力を入れています。

○地域で支える仕組みづくり

県庁所在地であり、中核市としての特徴を活かし、現在、企業と連携して有機農業を支える仕組みについて、検討しています。



有限会社 土遊野
(代表取締役 河上めぐみさん)

富山市の小羽地域を中心に、約30ヘクタールの農地と養鶏を組み合わせた経営で、畜産由来の有機資源を循環しながら有機農産物を生産しています。

また、富山市有機農業推進協議会の副会長を務めながら、有機米の学校給食では街なかの小学生に農業の面白さを伝えるなど、富山市内の有機農業経営を行う代表的な法人として、有機農業の普及啓発に積極的に取り組んでいらっしゃいます。



有限会社 小原営農センター
(代表取締役 宮田香代子さん)

富山市岩木地域を中心に約45ヘクタールの農地で有機米と有機大豆、その加工品を製造、販売しています。

宮田代表も、富山市有機農業推進協議会の委員を務め、有機米栽培研修会ではその栽培のノウハウを慣行の農業者に伝えるなど、有機米や有機大豆の生産技術の向上に尽力いただいている。

また、先に紹介した有限会社土遊野と同様、中山間地域で雇用を創出し、地域の活性化にも寄与するなど、富山市内で有機農業経営を行う代表的な法人となっています。



地場もん屋
総本店

市内の農産物が集まる富山市の中心市街地の直売所です。有機JAS認証を受けた有機米や大豆を加工した豆腐等に加え、減農薬・減化学肥料など環境に配慮した農産物が勢ぞろいしています。 α -リノレン酸が豊富で話題の市内産のえごま油も取りそろえる富山市に訪れた際にはぜひ立ち寄ってほしい場所です。

営業時間 10時～18時30分
年末年始定休
富山市総曲輪三丁目3番16号 ウィズビル1階

